


# 特定非営利活動法人 地星社

第4期 事業報告書

2015.4.1 - 2016.3.31

 地星社

## ミッション(何をする団体か?)

社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し、増やしていく。

## ビジョン(どのような社会を目指すか?)

私たちひとりひとりが地域づくり・社会づくりにかかわっていく社会の実現。

## 活動における原則

### 1. 信頼の原則

人や組織には、社会を変える力が本来備わっていることを信じ、その力が活かされるよう後押しする。

### 2. 互敬の原則

人を大事にし、互いに敬意合う関係性を築く。

事業報告書の中でも若干触れていますが、2015年度は社会福祉士の資格取得のために岩沼市社会福祉協議会において実習をさせていただきました。中間支援という活動ではなかなか接することの少ない生活困窮者の家庭に訪問したりもしましたし、ごみ屋敷での片付けの手伝いなども体験しました。自分たちが活動しているその先にこうした現実があるということに、短い時間ではあっても実際に触れたことは得難い体験でした。

地星社の活動においても福祉の分野との接点が年々増えています。今回の社会福祉士資格の取得は、個人的なものではありますが、地星社のこれからの活動への布石でもあります。

団体としてもよりいっそう地域福祉についての知見・スキルを蓄積していき、今後の活動に活かしていく予定です。

地星社 代表 布田 剛

地星社の2015年度の活動では、以下のことに重点を置きました。

### 事業に関する取り組み

- ①各主体の協働を進めるために、課題の可視化と共有を図る。
- ②震災後5年間の復興支援活動団体の活動と資金の状況を明らかにする。

背景...復興支援の文脈だけでなく、社会的弱者に対する支援を協働で進めていくことが重要になる(担い手の分散、地域住民の課題解決力強化、各主体間での役割分担、公的制度・資金の活用)。

### 組織運営に関する取り組み

- ①中期計画の策定

地星社という組織を通して社会に生み出したい成果と、そのためには地星社をどのような組織にしたいかという中期ビジョン明確にし、その実現のための中期計画を、役員・会員有志による会議・ワークショップ等で策定する。

- ②活動への参加を増やす

事業のあらゆる場面において会員・ボランティアが参加できる可能性はないかを考え、特に継続的な参加を増やす。

- ③収入の基盤づくり

経常収益484万円、そのうち助成金収入を232万円(48%)、事業収益201万円(42%)、会費・寄付金収入50万円(10%)を目標とし、自主財源の安定化・収入の基盤づくりを行う。

重点項目	成果	課題
協働を進めるための課題の可視化と共有	移動困難者調査の結果などを使って石巻でワークショップを開催し、行政や多くのNPOの参加を得て議論ができた。	石巻の移動困難者問題には継続的にかかわりつつ、他の地域においても行政や社協等との関係づくりを行う。
復興支援活動団体の活動と資金の状況	15団体へのヒアリングを実施、結果を県内や東京の中間支援団体・助成機関と共有し、今後の支援のあり方を議論した。	ヒアリングの結果を踏まえて、より全体の状況を明らかにすることと、地域にどのような団体があるか見えるようにしていくことが必要である。
中期計画の策定	理事会での議論の他、計画策定ミーティングや関係者ヒアリングを実施。中期計画の方向性ができた。	15年度中に策定を終えることができなかったため、16年度において完了させることが目標である。
活動への参加を増やす	ミーティングスペースを設置したこともあり、会計事務にボランティアの参加を得ることができた。	会計ボランティアの他にも、活動への参加の機会をつくる工夫が必要である。
収入の基盤づくり	経常収益のうち、自主財源比率(会費・寄付金・事業収益)は42%で、前年度の34%から増加した。	プロジェクトに対して寄付を呼びかけ、寄付を集めていく流れをつくることが課題である。

### 社会福祉士の有資格者が2名になりました。

唯一の常勤スタッフで代表の布田が社会福祉士の資格を取得し、これで地星社での社会福祉士有資格者は副代表の真壁と合わせて2名となった。

資格取得自体は個人としてのものになるが、資格取得のために6月から9月にかけて岩沼市社協において計24日間の実習を行い、その分地星社としての活動時間を減らすといったこともあったので、地星社としてのスタッフの社会福祉士資格取得の意義について記す。

#### ① 中間支援における専門性の向上

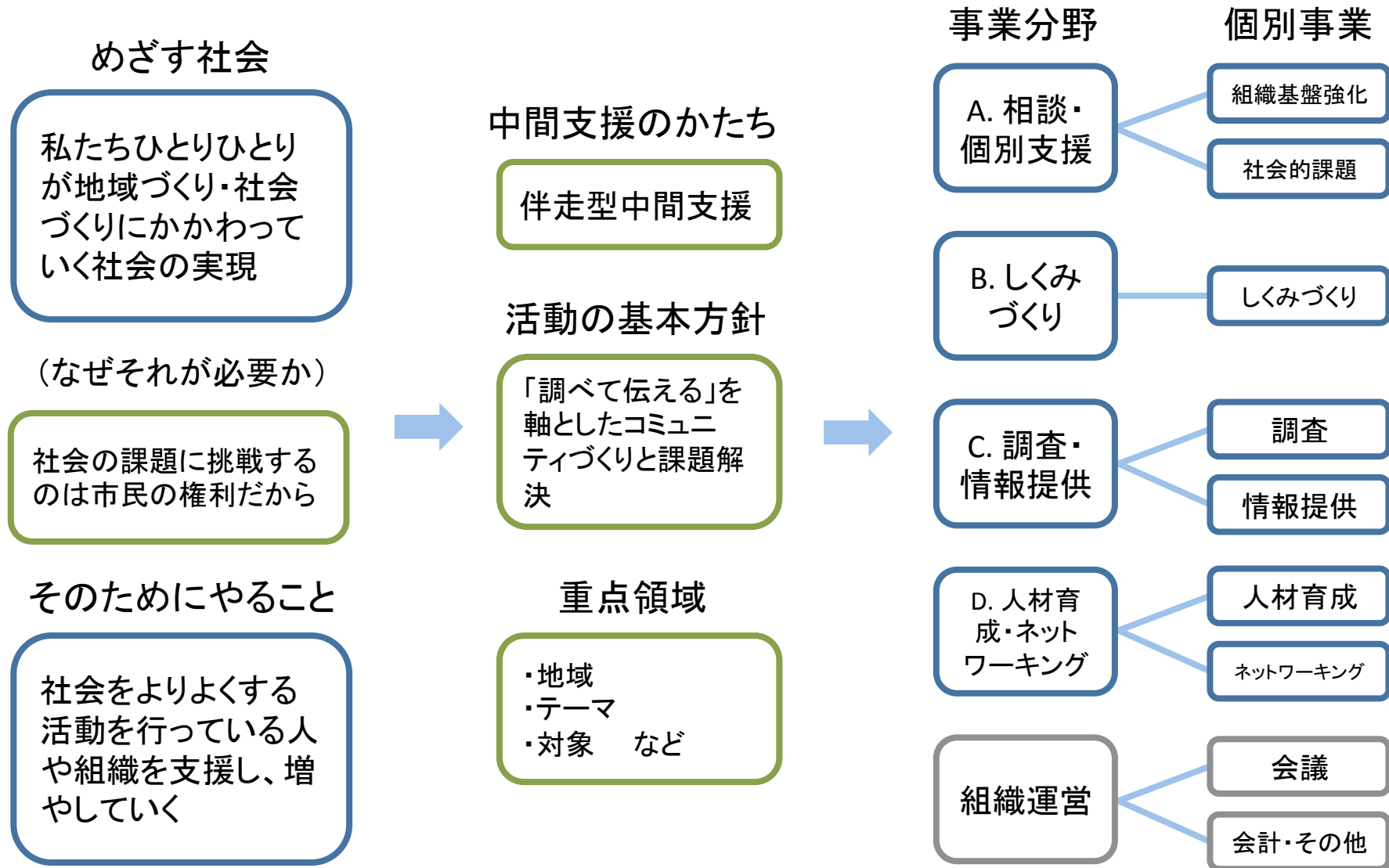
地星社がビジョンとして掲げる「私たちひとりひとりが地域づくり・社会づくりにかかわっていく社会」を実現していくにはコミュニティソーシャルワークの知識や手法が有効である。また、中間支援を行う上では福祉全般に渡る幅広い知識や、相談援助の手法が役立つ。資格取得の過程において、こうした知識や手法を学習することで専門性を向上させることができた。

地元である岩沼市の社協で実習をしたことも、地域福祉の課題を実感として知ることや、社協が地域においてどのような役割を果たしているかを理解する上で有益だった。

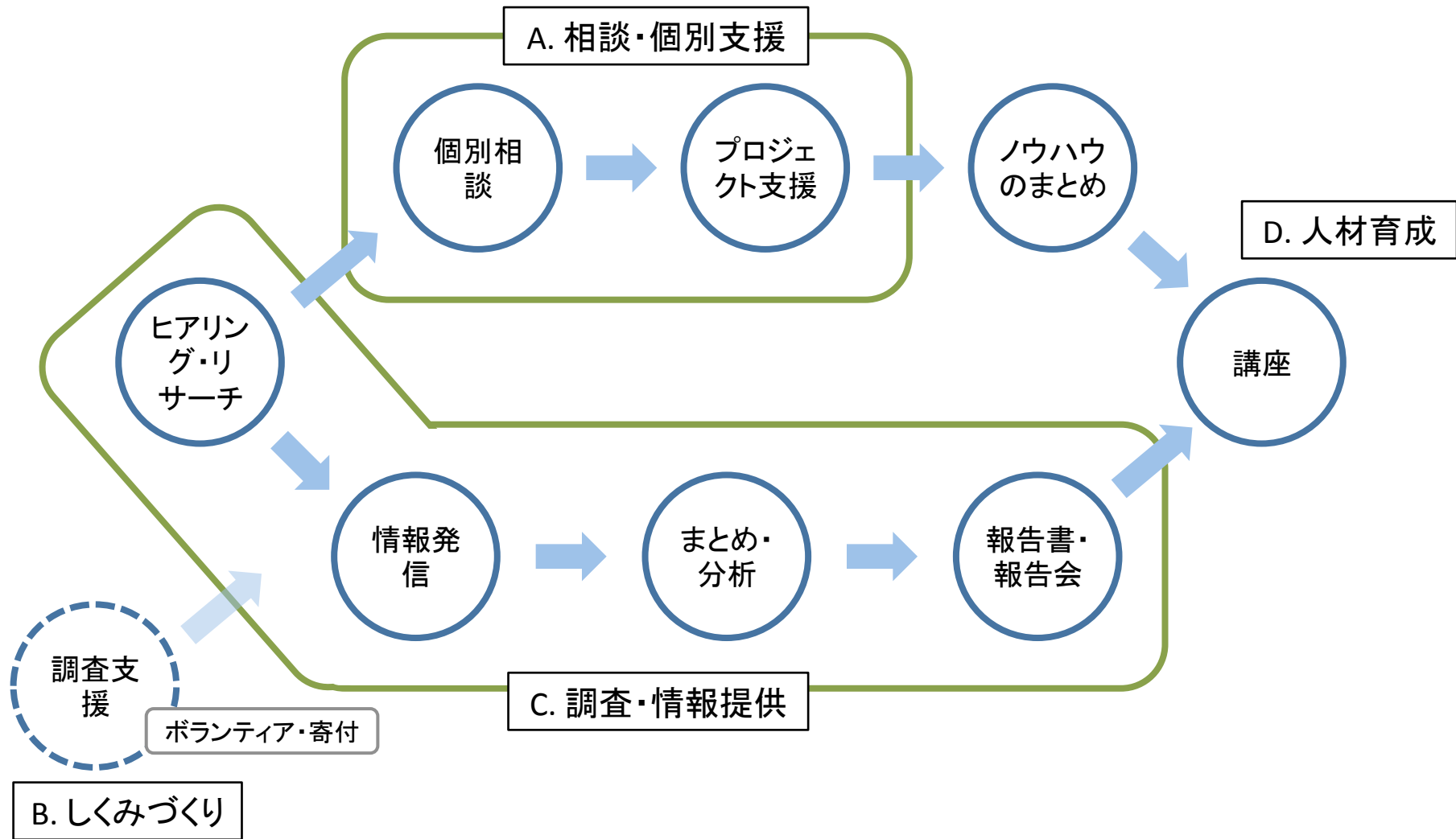
#### ② 福祉関係機関・団体からの信頼性の向上

スタッフが社会福祉士の資格を持つことは、知名度や実績が少ない地星社のような団体が地域の福祉関係の機関・団体（特に行政や社協など）からの信頼性を高める上でのひとつの要素となる。

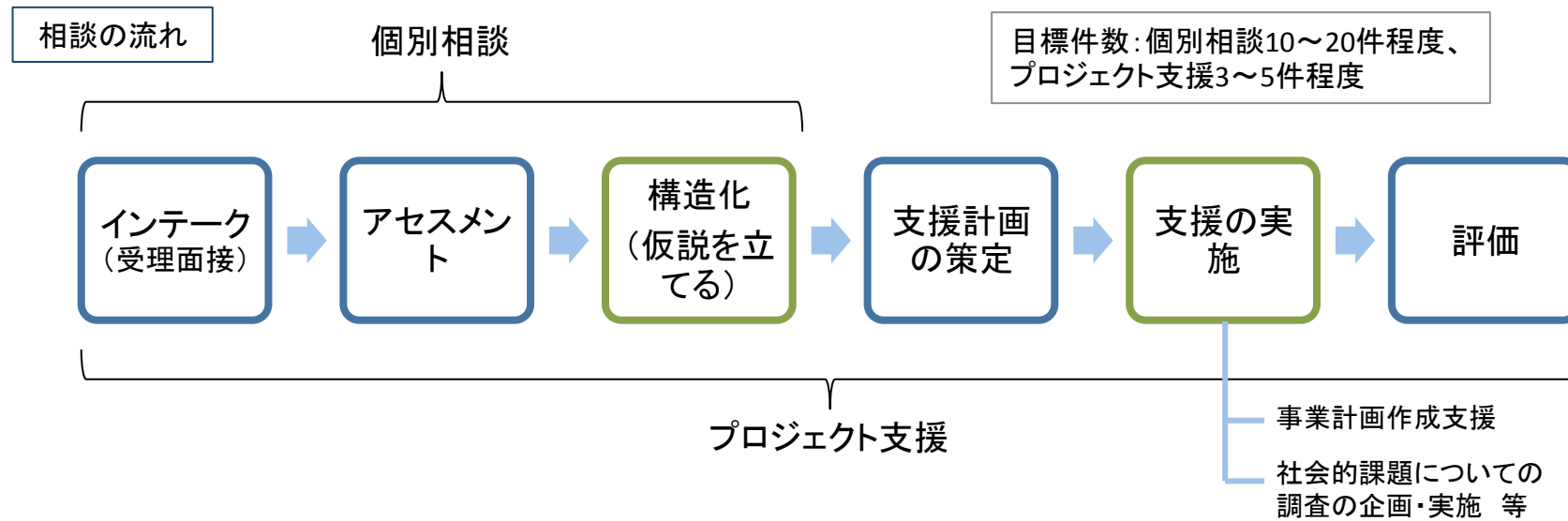
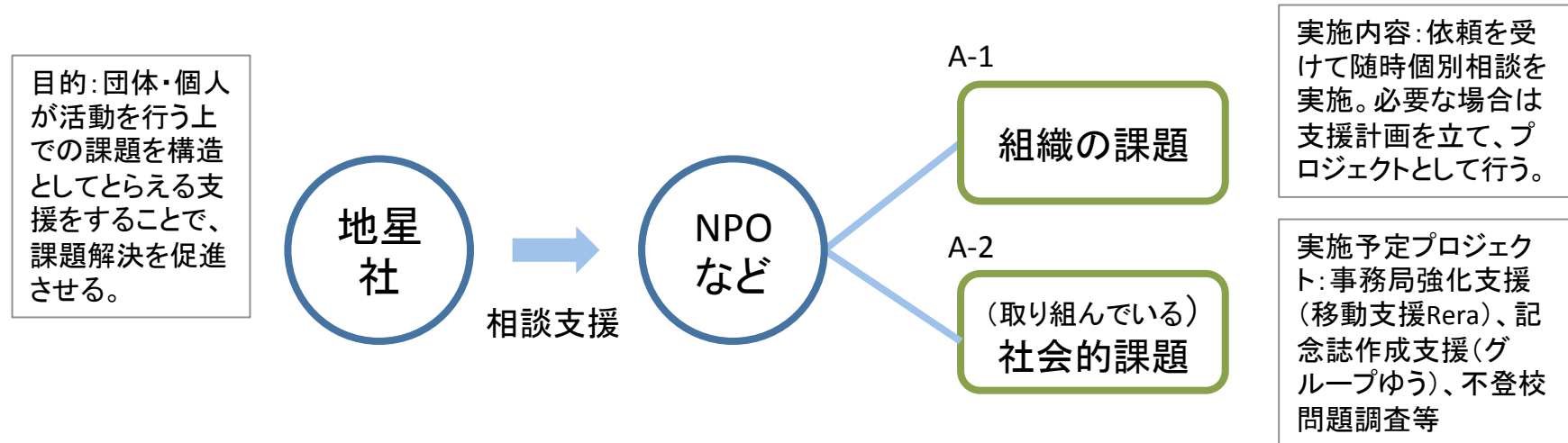
今後も専門職としての技能・知識を深め、専門職としてのネットワークを広げることで、信頼性の向上につなげていく予定である。



各事業が有機的につながりながら成果を上げることを目指しました。



相談を通して、課題を構造としてとらえる支援を目指しました。





13団体17件の個別相談のほか、組織基盤強化の研修などに対応しました。

種類・プロジェクト	実施内容	成果	課題
個別相談	13団体17件の個別相談(ヒアリング含む)に対応した。内訳は、NPO法人6、社団・財団法人2、行政1、その他4で、地域は仙台5、石巻2、県南3、その他3だった。	団体運営上の課題や、法人立ち上げなどの相談に対応し、概ね1回で相談内容に答えることができた。	調査に関する相談が増えつつあり、継続的に対応できるようにしていくのが課題である。
移動支援Rera 組織基盤強化支援	移動支援Reraの組織基盤強化として研修プログラムの支援を行った。Reraが日本NPOセンターの助成を受けて行ったもので、他の複数の支援者との協働で実施した。	各スタッフが団体の今後のあり方について考え、方向性を打ち出すことができた。	新規事業を形にしていくこと、地域の行政・医療福祉機関とのさらなる関係づくりが課題である。
グループゆう 記念誌作成支援	14年度からの継続で記念誌作成における企画と編集の支援を実施した。	だいたいの内容が決まり、各事業についての原稿がある程度できた。	進捗を早めて完成させることが目標である。
ETIC. 右腕派遣プログラム コーディネーター業務	NPO法人ETIC.が実施している右腕派遣プログラムで仙台地区1件(アップルファーム)を担当した。(10月から開始)	プロジェクトの内容を整理する支援を行うことができた。	プロジェクトの進捗をより加速させていく支援が必要である。

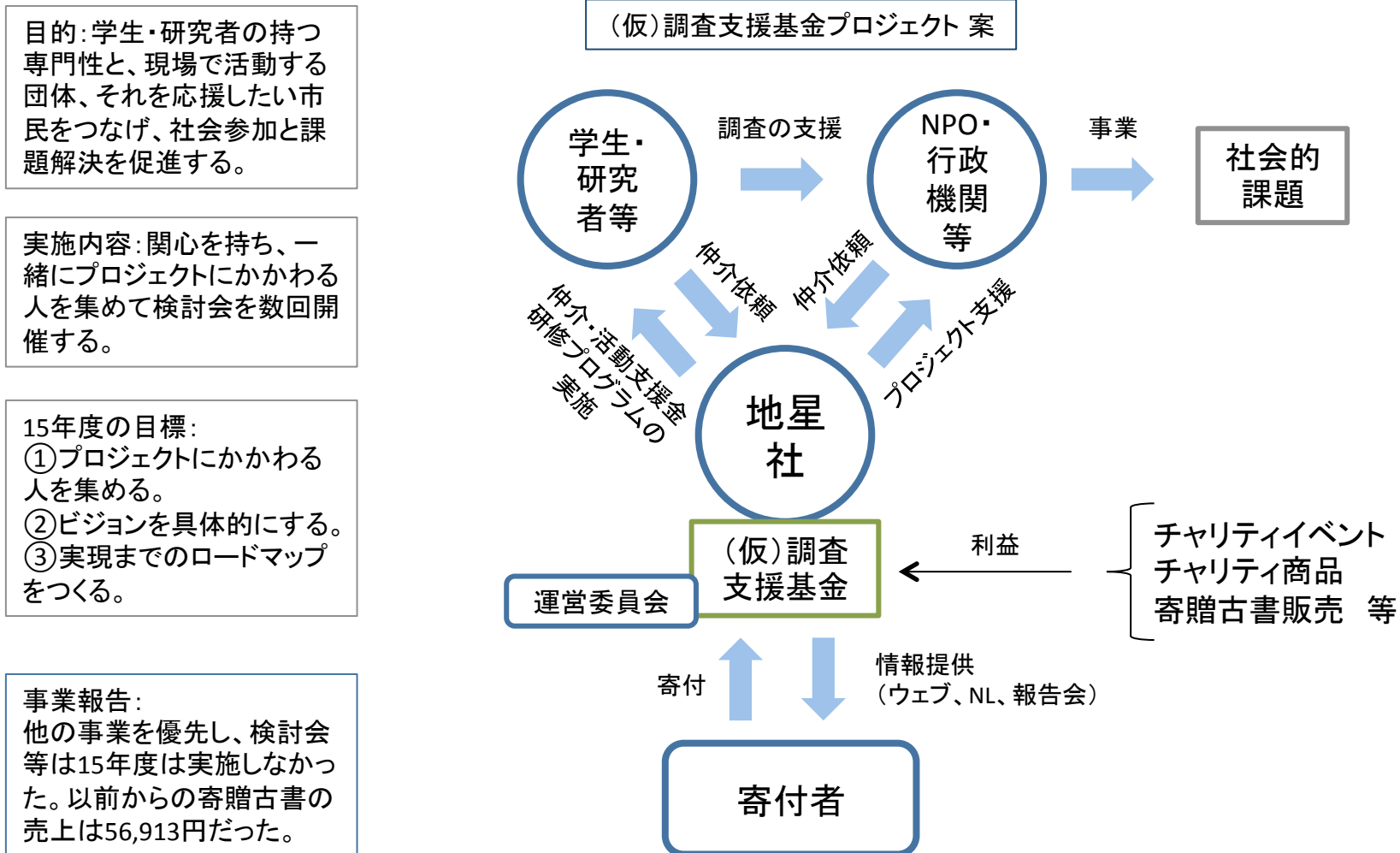
就労支援のニーズ調査、ひきこもりの調査などを行いました。

種類・プロジェクト	実施内容	成果	課題
若者の就労支援に関する調査	NPO法人Switchが福祉医療機構(WAM)の助成を受け、困難を抱える若者を対象に岩沼市で行った就労支援プログラムにおいて、アンケート調査を担当した。調査は、民生委員を対象としたひきこもりに関する調査と、Switchの利用者を対象としたニーズ調査を実施した。	ひきこもり調査では、民生委員の把握しているケースの半数で10年以上のひきこもりであり、深刻なケースも少なくないことが見えてきた。また40代のひきこもりも多いことがわかった。利用者調査では、いくつかの属性に分けた場合、ブランクの長短による違いが大きい傾向にあった。今回の調査を通して、岩沼においてひきこもりや就労困難者の問題への関心を高めるきっかけをつくったのが成果といえる。	今回の事業は、もともと若年者の就労支援が目的だったが、調査からは40代でもひきこもりが多いことが見えてきた。調査として関わるのはこれでいったん終了だが、公的な支援から外れているこうした方々やその家族になんらかの支援が届くようにするのが課題である。

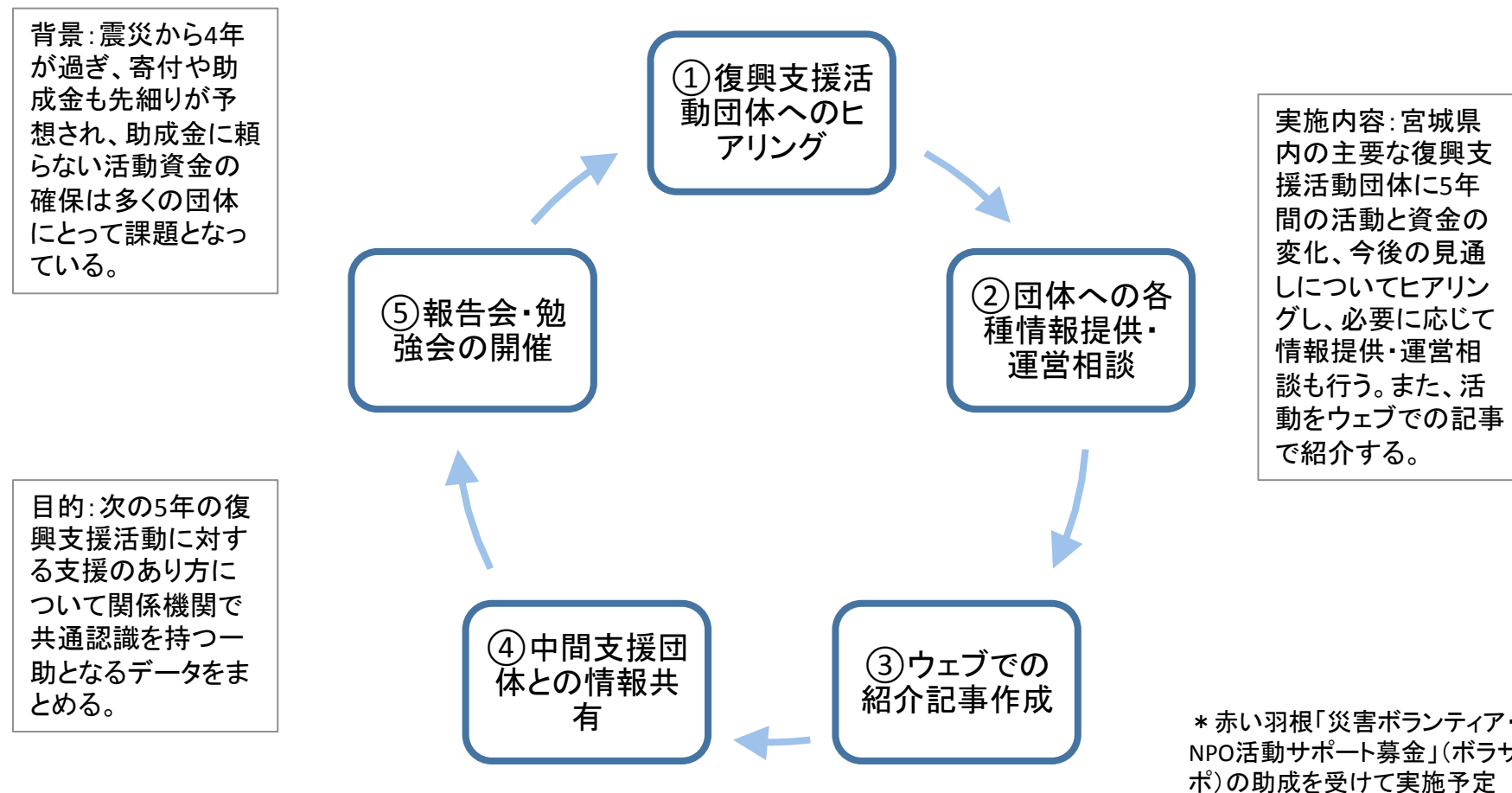


完成した事業報告書

他の事業を優先し、15年度は実施しませんでした。



復興支援活動団体の活動と資金の変化についてまとめ、情報を共有することを目指しました。



## 復興支援活動団体15団体へのヒアリングを実施しました。

### 実施内容

#### 復興支援活動団体15団体へのヒアリングを実施

宮城県内で活動する復興支援活動団体を対象に、活動内容や組織運営上の課題(特に活動資金)などについてヒアリングを行い、必要な場合には相談支援を行った。また、被災三県それぞれの中間支援団体にヒアリングを行い、それぞれの県での課題の状況や復興支援団体の活動状況について伺った。

3月に東京で、主に中間支援団体や助成機関の方を対象に小規模の報告会を実施し、被災地での復興支援活動の状況と課題を紹介するとともに、今後の支援のあり方や現状の問題について参加者との議論を行った。

8月には石巻でテーマを絞った勉強会(移動困難者の問題)を開催し、IIHOEの川北秀人さんを講師に、行政やさまざまなNPOなどの参加を得て課題解決についてのワークショップを行った。

### 成果

#### 復興支援活動団体の活動資金の状況を共有

復興支援活動団体にとって資金の問題は大きな課題であるが、その状況は想定以上に一様ではないことがわかった。ヒアリングを通して見えてきた実情を中間支援団体等に共有できたのが成果である。

### 課題

#### 地域の社会資源、行政等との信頼関係

調査事業ではこれまで被災地の課題や復興支援活動団体の課題を対象としてきた。これを解決していく上ではやや視点を変えて、地域の社会資源に目を向けていく必要がある。

また、行政や社協などとの連携をしていく前提として信頼関係の構築などを図っていきたい。

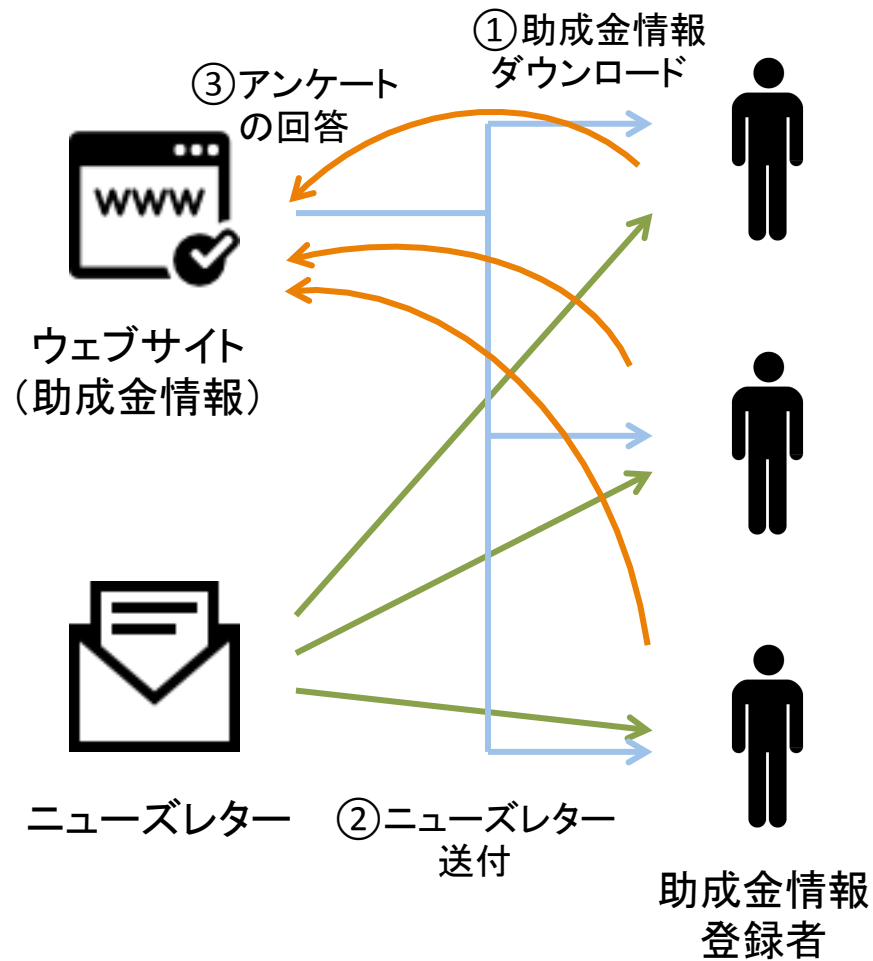
## ヒアリング先団体一覧

団体名	地域	ヒアリングの主な内容
(一社)まなびの森	角田市、山元町	活動の経緯、今後の事業など
(特活)移動支援Rera	石巻市	課題の現状、組織基盤強化など
(特活)お茶っこケア	石巻市	活動の状況の変化、地域の課題など
(特活)奏海の杜	南三陸町、登米市	活動の状況の変化、組織の課題など
(特活)こども∞感ぱにー	石巻市	活動の経緯、組織運営など
(一社)キャンナス東北	石巻市	環境の変化と今の課題など
(一社)りぷらす	石巻市	活動の状況、今後の事業など
(特活)ベビースマイル石巻	石巻市	活動の経緯、地域の課題など
(特活)いわて連携復興センター	岩手県	活動の状況、岩手の団体の状況など
(一社)みやぎ連携復興センター	宮城県	現在の活動、宮城の課題など
名取市サポートセンター どっと. なとり	名取市	活動の経緯、福島の状態など
(特活)うつくしまNPOネットワーク	福島県	活動の経緯、現状の課題など
気仙沼あそびーばーの会	気仙沼市	活動の経緯、地域の変化など
(特活)気仙沼まちづくりセンター	気仙沼市	活動の経緯、気仙沼の状態など
(一社)ボランティアステーション in 気仙沼	気仙沼市	活動の概要、今後の活動など

助成金情報をツールとして、中間支援のニーズを探ることを目指しました。

目的: 資金調達を中心に市民公益活動に関する情報を提供し、地域課題に取り組む団体の活動促進につなげる。

15年度の目標:  
 ① 月1回程度更新、登録者350名を目標とする。  
 ② 年4回以上発行する。  
 ③ ウェブアンケートの結果をまとめて、地域課題に取り組む団体にどのような支援のニーズがあるかを明らかにする。



実施内容:  
 ① 助成金情報をまとめ、登録者に提供する(ウェブからダウンロード)。更新時期に合わせ、メルマガを配信。  
 ② 登録者にニュースレターを送付。助成金以外の資金調達の方法、被災地の課題などについての情報を送る。  
 ③ 登録者を対象にウェブアンケートを実施し、中間支援のニーズを探る。

## 助成金情報とメルマガを統合して情報提供を行いました。

### 実施内容

#### 助成金情報とメルマガを統合

助成金情報一覧を更新したタイミングでメールマガジンの配信を行った。助成金情報とメルマガの登録はそれぞれ別になっていたが、2月から統合した。3月末の登録者数は552人である。

当初予定にあった利用者アンケートは、助成金情報とメルマガの統合が遅れて実施できなかった。

ニュースレターを1回発行し、メルマガ読者に送付した。宮城県内の地域福祉計画の策定状況などについて伝えた。

フェイスブックやツイッターでも、NPOの活動に役立つ情報を中心に情報発信を行った。3月末時点でのフェイスブックのいいね！数は589、ツイッターのフォロワー数は286だった。

### 成果と課題

#### 助成金情報のあり方を検討

助成金情報については、ニーズの変化があることと、情報を探してまとめることの労力とそれに見合った成果がわかりにくいことから、継続するかどうかも含めて今後の実施内容を検討する必要がある。

ニュースレターやメルマガについては、一方的な情報提供ではなく、読み手の参加も得られるようなあり方を今後検討していきたい。

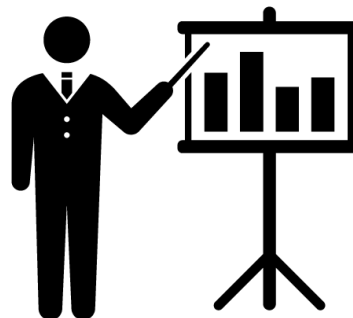


講師派遣は、課題の見える化・事業計画づくりといったテーマに特化して行います。

### 人材育成

#### 講師派遣

目的: 研修を通して、課題を構造的にとらえる方法や、それを元にした計画づくりの方法を伝えることで、地域課題に取り組む人材のスキルアップを図る。



実施内容: 課題の見える化、事業計画づくりといったテーマの研修で、依頼を受けて講師を行う。

目標: 年に1~2回程度実施。

### ネットワーキング

#### 交流会の開催

目的: 地域の課題に取り組む団体・人のネットワーキングの機会を設けることで、連携を促進する。

目標: 年数回程度試験的に実施し、定期的開催ができるようにする。



実施内容: 地星社のミーティングスペースなどを利用して、地域の課題に取り組む人を対象とした交流イベント(オープンデイ)を開催する。

## 講師派遣等

タイトル	内容	主催	実施日	場所	担当
岩沼市社会福祉協議会 晩かたカフェ	NPOとは何かの説明と地星社の活動紹介	(社福)岩沼市社会福祉協議会	6月26日	岩沼市総合福祉センター	布田
仙台市市民活動サポートセンター 活動力強化講座	社会的課題の見える化の方法について	仙台市市民活動サポートセンター	8月22日	仙台市市民活動サポートセンター	布田
「序論・本論・結論」方式でわかりやすくまとめるプレゼンの手法	わかりやすいプレゼンの手法について	宮城県サポートセンター支援事務所(内部研修)	10月19日	宮城県サポートセンター支援事務所	布田

## 会議・交流会の開催

タイトル	ゲスト	参加者数	実施日	場所
地星社認定NPO法人取得記念懇親会	高橋由佳さん(NPO法人Switch理事長)	22名	6月6日	ミア・アンジェラ(仙台市青葉区)

## 成果と課題

講師派遣では、目指していた「課題の見える化」のテーマで開催できた。内容や手法については、改善を図っていく必要がある。

当初構想にあった交流会は実施する余裕がなく、認定取得記念懇親会以外には開催しなかった。他の事業やテーマとつながる内容にし、目的を明確にするなど再検討が必要である。

仙台市市民協働「基本方針」策定WGメンバーとして基本方針案づくりにかかりました。

## 各種委員

仙台市の市民公益活動促進委員会の下に設けられた「基本方針」策定ワーキンググループのメンバーとして、会議1回、ワークショップ1回(市民対象)に出席し、基本方針案の作成を行った。

## 会議等への出席

生活困窮者自立支援事業に関する情報交換会(岩沼市社協主催)、仙台市「市民利用施設の使用料見直しに関する基本的な考え方」の自主勉強会(オペレーションつれぶき主催)、フードバンク検討会(ふうどばんく東北AGAIN主催)などに出席した。

## パブリックコメントの提出

「宮城県民間非営利活動促進基本計画(第4次・中間案)」について、団体としてではないが、代表の布田が個人の立場でパブリックコメントを提出した。

## 研修

ファンドレイジング日本2016(日本ファンドレイジング協会主催)に布田が参加した。

## メディア掲載

月刊社の伝言板ゆるる10月号に移動困難者支援の状況について寄稿した。また、同誌11月号において、認定NPO法人の記事で地星社について紹介された。



記事が掲載された月刊ゆるる10月号と11月号



移動困難者調査WS 川北秀人さんの講義



移動支援Rera 組織基盤強化研修の様子



移動困難者調査WS グループワークの様子



どっと. なとり ヒアリングの様子



JCN現地会議での発表

中期計画についての議論を継続して行いました。

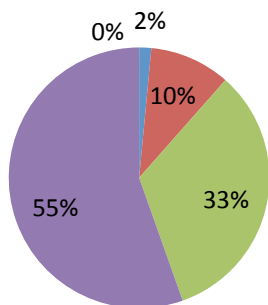
## 会議の開催

理事会を6回開催し、実施事業や団体運営のルールについて議論し、決定した。これらの会議の他に、中期計画について役員・会員との個別の意見交換を随時実施した。

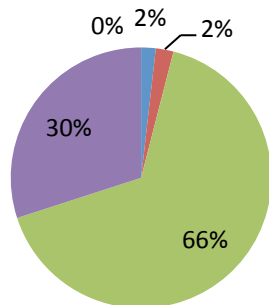
実施日	会議の種類	主な議題	出席者(実出席)	会場
5月14日	理事会	事業報告書・決算書、事業計画書・予算書、役員の改選、理事の給与等	理事4名	仙台市市民活動サポートセンター
6月6日	理事会	事業報告書・決算書、事業計画書・予算書、役員の改選等	理事・監事6名	仙台市民会館 第3会議室
6月6日	通常総会	事業報告・決算の承認、事業計画・予算の報告、役員の改選、意見交換	理事・監事・会員・寄付者11名	仙台市民会館 第3会議室
7月30日	理事会	代表理事、副代表理事の選任、実施事業等	理事4名	仙台市市民活動サポートセンター
9月11日	理事会	中期計画、実施事業等	理事4名	地星社事務所
12月8日	理事会	中期計画、実施事業等	理事4名	みやぎNPOプラザ
1月11日	中期計画ミーティング	中期計画	理事4名	仙台市市民活動サポートセンター
2月23日	理事会	中期計画、資金の借り入れ等	理事3名	みやぎNPOプラザ

経常収益は40万円減少。自主財源比率は34%から42%に増加しました。

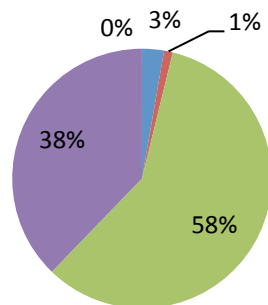
2013年度収益  
3,057,070円



2014年度収益  
4,101,396円



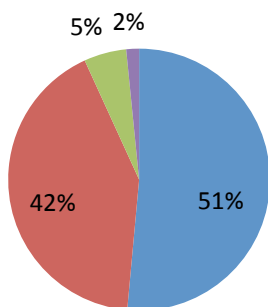
2015年度収益  
3,702,625円



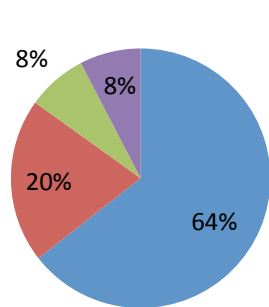
- 会費
- 寄付金
- 助成金
- 事業収益
- その他収益

自主事業の割合を増やすことを意図して助成金申請額を減らしたため、助成金収入は54万円減少した。

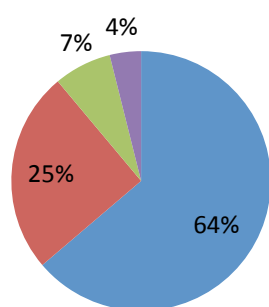
2013年度費用  
2,856,667円



2014年度費用  
3,771,789円



2015年度費用  
3,890,505円



- 事業費(人件費)
- 事業費(その他経費)
- 管理費(人件費)
- 管理費(その他経費)

事業収益は17万円の増加で、寄付金は5万円減少した。助成金収入が減ったことで自主財源比率は42%となり、前年の34%から増加した。

プロジェクト支援での事業収益と、寄付金収入を増やすことが課題である。

\* 過年度損益修正損として計上した分を当該年度の金額に反映させています。

15年度も多くの方のご協力により、事業を進めることができました。

## 謝辞

「宮城の復興支援団体の活動資金ヒアリングおよび運営相談事業」については、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金(ボラサポ)」(社会福祉法人中央共同募金会)の第16次助成を受けて実施することができました。ボラサポからは、地星社の立ち上げから間もない13年度から毎年助成を受けてきました。

その他、ここでおひとりおひとりお名前を挙げることはできませんが、多くの方から地星社の活動にご協力をいただきました。みなさまからのあたたかいご支援に対し、心より感謝を申し上げます。



## ご寄付のお願い

地星社へのご支援を今後ともよろしく願いいたします。なお、地星社への寄付は寄付金控除の対象となります。

寄付金受入口座	
金融機関	ゆうちょ銀行 二二九(ニニキュウ)店(229)
口座名義	特定非営利活動法人地星社
フリガナ	トクヒ)チセイシャ
種別／口座番号	当座 0112957
* ゆうちょ銀行からは「02220-3-112957」にお振り込みください。	
* ウェブからのクレジットカードでの寄付も受付しています。 ⇒ <a href="http://chiseisha.org/donation/">http://chiseisha.org/donation/</a>	

名称	特定非営利活動法人 地星社
法人設立	2013年3月1日（任意団体設立 2012年9月1日）
所在地	宮城県岩沼市中央4-8-77
役員	理事：布田剛（代表）、真壁さおり（副代表）、河合豪雄、高橋陽佑 監事：門田陽子、高田篤 （任期：2015年7月1日～2017年6月30日）
会員数	正会員13名、準会員（賛助会員）13名、2団体
URL	<a href="http://chiseisha.org">http://chiseisha.org</a>
メール	<a href="mailto:office@chiseisha.org">office@chiseisha.org</a>

（2016年3月31日現在）